桑原〈くわばら〉（西紀町）

むかしのことです。有名な和泉式部〈いづみしきぶ〉が丹後へむかう途中、たいへんな嵐〈あらし〉にあいました。それは、毎日、毎日大雨が降りつづき、附近一帯の河は大はんらん、橋という橋はみんな流れてしまいました。
むかしのことですから、すぐ橋をかけるわけにはいきません。ひとつの橋をかけるのに、二年も三年もかかりました。
ここまで来た式部は、たいへん困りました。それは、行くこともできないし、また帰ることもできないからです。とうとう、思案にくれて、村の人々に相談しました。親切な村の人びとは、
「橋ができるまで、どうか、ゆっくりしてください。」
といって、家まで、用意をしました。式部は、村の人々の親切なもてなしに心から感謝しながら、楽しい毎日を送っていました。

日がたつにつれ、式部もだんだん、村の様子がわかってきました。そして、村を豊〈ゆた〉かにすることについて、いろいろ考えるようになりました。
或日のことです。式部は、村の人びとを集め、蚕〈かいこ〉をかうことをすすめました。村の人びとは、式部のいうとおり蚕をかうことを決めました。

さて、このあたりは、山が迫〈せ〉まり、田んぼが少ないので、山を開こんして、桑の木を植えることにしました。毎日、村の人々は、一生けん命しごとに励〈はげ〉んだので、意外に早く、桑の木を植えることができました。
三年程たつと、山のふもとは、一面、桑畑になり、どの家も、蚕をかうようになりました。村の人びとは、式部に心から感謝しながら、養蚕にはげんでいました。
やがて、橋もできたので、式部は、丹後へ旅立つことになりました。
「桑原〈くわばら〉の里〈さと〉に引くまゆひろい置きて、君が八千代の衣糸にせん。」
という、歌を残こして、村人とわかれを惜しみながら、ここを去っていきました。それから、誰いうとなく、この辺一帯を桑原というようになったそうです。